Osaka University Knowledge Archive

Title	タイ・チェンマイ大学での日本語教育実習報告
Author(s)	高橋, 茉莉奈
Citation	日本語講座年報. 2024, 2022-2023, p. 35-37
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95468
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

タイ・チェンマイ大学での日本語教育実習報告

高橋 茉莉奈

1. はじめに

本稿は2022年8月から2023年2月にタイ・チェンマイ大学の人文学部日本語学科にて行った、日本語教育実習の報告である。実習にあたり、国際交流基金から航空券や滞在費などの支援をいただいた。チェンマイはタイの北部に位置する都市で、タイの第二の都市とも言われており、日本人も多く住んでいる。チェンマイ大学には人文学部日本語学科があり、主専攻として日本語を学ぶ学生が4学年合わせて120人、副専攻として日本語を学ぶ学生が160名程度いる。日本語教員は日本人教師が5人、タイ人教師が5人おり、日本語や日本文化、歴史などの授業が行われている。

2. 日本語教育実習の概要

実習期間は上記の7ヶ月間である。教育実習生として、TA（ティーチングアシスタント）を行った。実習生の主な業務は、(1) 授業参与、(2) 宿題や小テストの添削、(3) 期末テストの採点、(4) 授業の一部分を借りた実習授業である。以下、各々について説明する。

(1) 授業参与

平日2コマから3コマ、会話・聴解・作文・ビジネス・観光などの日本語の授業に参加した。授業中はプリントの配布など教師の補助を行ったり、グループワークの中に入り学生と一緒に話し合ったり、学生からの質問に対応したりした。また教師の授業の流れや学生の様子など細かく観察し、メモを取りながら、導入の流れや活動の組み立て方など多く学ぶことができた。

(2) 宿題や小テストの添削

毎授業で実施される小テストの添削を行った。主に語彙の穴埋め問題や語彙を使った例文の添削を行った。教師と相談しながら添削することを通して、授業の狙いや学生の理解度を把握することができた。また添削にコメントを入れて返すことで学生との距離も縮まった。

(3) 期末テストの採点

期末テストにも参加させてもらい、副専攻の学生の会話のテストや、3年生の就活面接風の会話テストなどの採点をする機会をいただいた。何ができていたら何点なのかなどの採点基準の認識を他の教師と揃えることの難しさを学ぶと同時に、テストに向けて、準備をしてきた学生の姿に感銘を受けることが多々あった。

(4) 授業の一部分を借りた実習授業

会話の授業などで授業の導入部分をさせていただく機会をいただいた。1回目に行った導入は緊張してしまい、なかなか興味を持ってもらえなかったが、回数を重ねるにつけ、学生を惹きつける導入の仕方が徐々にわかるようになった。

これらの4つの業務を通して自分自身の課題・問題点に向き合うと同時に、日本語教師が日々どのように授業を行なっているのか、学生の反応も見ながら具体的に学ぶことができた。

3. スピーチ大会

チェンマイ大学の日本語学科には毎年12月に2年生がスピーチを行う学内行事がある。このスピーチ大会に向けて9月ごろから原稿を書き始め、教師と一緒に大会に向けて準備を行う。私も担当の学生を7名持ち、複数回の面談を通して、原稿や話し方についてアドバイスを行った。どのようにしたら、学生の思いが伝わるのか工夫するのは思っていたよりも難しかった。大会の前日まで改善を繰り返し、迎えた当日は緊張しながらも堂々としたスピーチで、スピーチを終えた後は学生と一緒に達成感に包まれた。

スピーチ大会後に担当の学生と

4.　学びキャンプ

学びキャンプとは授業がない日に、日本語学科の教師が自主的に実施している半日のプログラムである。私が派遣されている間に 2 回のプログラムが実施され、私も参加し内容を一緒に考えた。8 月のテーマは「変わりゆくものと変わらないもの」、2 月のテーマは「理想の働き方について考えてみよう」であり、テーマに沿って、集まった学生とディスカッションをした後、大学の周辺で働く人たちにインタビューを行い、その内容を発表した。私にとって半日のプログラムを構成するのは初めてで、学生を飽きさせず、段階を踏んで活動を行うことが大変であった。当日に向けて、ポスターでの告知や活動に使う材料の手配などを教師と協力しながら行うことができたのはとても大きな学びになった。参加した学生からも、「働き方について考える良い機会になりました」と言ってもらい、満足感の高いものにすることができた。

学びキャンプの様子

5.　その他授業外の活動

授業外の課外活動にも機会を見つけ参加した。チェンマイ大学の附属高校での日本語の授業にも参加し、会話の練習相手など TA をしに行ったり、日本語学科の学生がインターンをしている近くの高校へ見学に行き、着物の着付けや会話練習の相手を行ったりした。また日本語学科の学生とも放課後にムーガターという焼肉を食べたり、ソフトボール部の練習に参加したりなど授業以外でも交流することができた。

6.　実習を終えて

約半年の実習を終えて、大きく成長することができたと感じている。まず、実践的な授業の作り方を学ぶことができた。日本語で YouTube の動画を作成し、公開する授業、日本人を呼んでお寺をガイドする授業、オリジナル脚本の劇を発表する授業など多様な授業があり、それを通して日本語運用能力が向上している姿に感銘を受けた。また、どの学生もモチベーション高く熱心に日本語を学んでおり、自分自身も良い影響を多く受けた。一方で自分の至らなさにも向き合うことの多い半年でもあった。先生方が様々な機会を提供してくださる中で、自分自身に日本語教育や日本文化の知識がないためにうまく活かせない場面も多かった。また、派遣の前半は受け身になってしまうことが多く、もっと自分から授業の提案や実習の機会を取りに行くべきだったと反省している。今後派遣される後輩の方は、私を反面教師にして積極的に実習期間を過ごして欲しい。

最後に、温かく実習の機会を提供してくださったチェンマイ大学の先生方、学生の皆さん、研修に送り出してくださった筒井先生、櫻井先生にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

2 年生との集合写真

高校での着付け体験

観光の授業でお寺案内をしてもらった

授業終わりにご飯